**< 運営推進会議における評価>**

【事業所概要】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 法人名 | 社会福祉法人　美生会 | 事業所名 | ヴィラージュ虹ヶ丘　看護小規模多機能型居宅介護 |
| 所在地 | （〒215-0015）  神奈川県川崎市麻生区虹ケ丘　1-22-1-2 | | |

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

|  |
| --- |
| 医療機関との連携を強化し、退院された方や看取りが必要な方などを積極的に受け入れ、ADLの維持向上を図りながら在宅復帰を視野に入れて対応しています。  従事する職員は積極的に研修を受講させ、人材の育成強化を図っています。  また、業務への反映が出来るよう研修受講者がフィードバックできる体制を確保し内部職員の活性化に繋げています。 |

【自己評価の実施概要】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 事業所自己評価  実施日 | 西暦　2023　年　2　月　28　日 | 従業者等自己評価  実施人数 | （　11　）人　　　　　　　　※管理者を含む |

【運営推進会議における評価の実施概要】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 実施日 | 西暦　2023年　3　月　25　日 | 出席人数（合計） | （　8　）人　　　　　※自事業所職員を含む |
| 出席者（内訳） | ■自事業所職員（ 4 人）　　□市町村職員（　　　人）　　■地域包括支援センター職員（ 1 人）　　■地域住民の代表者（ 1 人）  □利用者（　　　人）　　■利用者の家族（　1　人）　　□知見を有する者（　　　人）　　■民生委員（　1　人） | | |

■ 前回の改善計画の進捗評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目 | | 前回の改善計画 | 実施した具体的な取組 | 進捗評価 |
| Ⅰ．事業運営の評価  （評価項目1～10） | | ・喀痰吸引ができる介護士の拡大  ・個人目標管理の継続、自己成長に繋げるための研修計画を立てる。  ・感染対策強化（マニュアル作成） | ・前年と同じくコロナウィルスの影響で病院行えず受講できず。  ・個人目標の立て方がわからず迷っているスタッフが多いことが面接でわかったので私の目標を発表しそこからキャリア、立場を考えて立ててもらった。 | ・喀痰吸引取得者は増えていないが、特養やショートと協力して降りてこられるようプランを立て、利用者に迷惑がかからないようにしている。 |
| Ⅱ．サービス提供等の評価 | １．利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供  （評価項目11～27） | ・看護、介護、ケアマネジャー、理学療法士等の連携の強化を図る（ミーティングでの話し合い・朝会でのミニカンファレンス）  ・担当者会議の充実  ・登録人数の拡大 | ・ナース会（常勤・パート含）→  ・ミーティング、朝会　　　　→ | ナースの情報共有  パートが孤立しないよう１回/月  中身が濃くなるように報告会だけにならないよう進行していく。 |
| ２．多機関・多職種との連携  （評価項目28～31） | ・主治医又はインフォーマル的な連携の強化  ・運営推進会議にて情報提供をし、ご意見を頂く | ・常勤ナースが主治医と連絡、連携をとりながら、ＮＳ一同で強化していく。 | ・常勤ＮＳが一人増えたことで在宅主治医だけでなく、病院の外来や家族への連絡が密になった。 |
| ３．誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画（評価項目32～41） | ・ご利用者を取り巻く近隣住民とのかかわり方  ・地域活動への参加 |  | ・カフェのオープン再開  ・ホームページなどのネット活用 |
| Ⅲ．結果評価  （評価項目42～44） | | ・在宅、看多機での看取りサービスの継続  ・家族の介護力低下に対応する総合的支援  ・独居の方のサービス提供のあり方 |  |  |

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | | 評価結果 | 改善計画 |
| Ⅰ．事業運営の評価  （評価項目1～10） | | 特記無し | 個人目標を面接後に施設目標→私の目標（所長）から落としてもらい、各々スタッフの立場、キャリアを理解し、手の届く目標を挙げるよう働きかけていく。 |
| Ⅱ．サービス提供等の評価 | １．利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供  （評価項目11～27） | 特記無し | ミーティング、朝会のカンファレンスは報告会になっている。利用者中心の濃いミーティング、話し合いをしていく。 |
| ２．多機関・多職種との連携  （評価項目28～31） | 特記無し | 看護、介護、ケアマネが個々のプロとしてお互いの職を理解し、一人ずつの利用者の目標に向かって話し合いをして、働きかけていく。 |
| ３．誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画（評価項目32～41） | 特記無し | 各部署において吸引等の有資格者を把握し、利用者に安心して宿泊していただけるよう施設内で情報共有をしていく。 |
| Ⅲ．結果評価  （評価項目42～44） | | 特記無し | 吸引、酸素、麻薬（痛みのｺﾝﾄﾛｰﾙ）、ストマ、管の管理、処置や死後の処置は自宅の家族では管理できず、信頼されることが多く継続していく。 |

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します